

角田市農業振興公社が 社団法人としてスタート

農業公社だより

発行
社団法人
角田市農業振興公社
TEL 63-2328
FAX 61-1521

農家を主体に 新しい農業を

三月四日、角田市役所を会場に、社団法人としての設立総会を会員等百三十人を集めて角田市役所で開かれました。

総会では、新年度の事業計画と角田市長佐藤清吉氏を理事長とする役員人事、角田農業の近未来像を描いた「角田農業戦略プラン」などが承認されました。また、公社の会員として加わるのは、市、JAみやぎ仙南、NOSAー県南、土地改良区などの団体と個人。担い手として期待される農業者が運営に参加するのが特徴です。



▲ 3月4日に行われた設立総会

設立にあたり ごあいさつ



理事長 佐藤清吉

角田市は、全国第七位の長河、阿武隈川の流域に開けた田園都市です。耕地は、五千鈔でそのうち水田は三千五百鈔を擁し、ひとめぼれの産地でありま

す。かつては、「農業は角田に学べ」と言われた農業先進のまちであり、協業組織の育成や基盤整備の進捗率、それに集団転作への取り組みなどでは決して他にひけをとらないもの

と、思っております。しかし、年々厳しさを増す農業情勢のもとで、しからば今後の活路があるのかという問いかけに對し、私たちが

の答えが即ち、農業振興公社であり、農政の舵

取りをこれに託そうと
しているのです。
公社は、行政と農協
をはじめとする農業団
体に加わり、それに百
十名余の担い手農家が
加入しております。財
団法人でなく、社団法
人であることにより、
多くの農業者、担い手
が参加できる門戸が開
かれたとも言えるので
しょう。

まず、公社は地域農
業のシンクタンク機能
を有し、地域の農業戦
略を企画し、角田の農
業をデザインします。
二つ目は、農作業受委
託の推進をはかり、農
地流動化によって担い
手に農地を集中し、大
規模経営でのスケール
メリットを追求しま
す。三つ目は、自立し
た農業経営者づくりを
行い、人材を養成する
「あぶくま農学校」を
開設します。四つ目は、
農畜産物のトップブラ
ンド化をはかり、また、
インターネットを駆使
するなどして角田の農
業を全国に発信しま
す。五つ目は、都市と



農村の交流に力を入
れ、その交流拠点を整
備しながら角田市その
ものをエココミュニシア
ムにして行こう、とい
うものです。

角田の農業の主役は
あくまで農業者であ
り、公社はその舞台で
す。角田には、まだま
だ元氣な担い手が、大勢
おりますので、この人
達を自由に使って、農
業の振興を図って行こ
う、というのが我が公
社の特徴でもあります。